

第5章 地域保健

第1節 母子保健

1 母子保健

母親のストレスや育児不安の軽減、子どもの健やかな成長を促すことを目的に心身障害及びその疑いのある乳幼児に対して専門医や保健師等による相談を実施している。

主に精神発達面について指導助言する「幼児精神発達相談」や未熟児養育医療給付時の面接相談、未熟児、多胎児等の訪問指導を実施した。

また、平成15年度から「母親のメンタルヘル

ス支援事業」の一環として、EPDS（エジンバラ産後うつ病質問票）を実施し、産科医療機関等と連携を図り妊産婦への心のケアを実施している。

他に管内産科・精神科医療機関職員や助産院職員、管内市町の母子保健事業に従事する職員を対象に妊産婦のメンタルヘルスに関する講演会等を開催した。

(1) 相談・訪問指導実施状況

表1 対象別相談訪問指導状況

平成22年度(単位：人)

区分	総数		妊産婦		新生児		未熟児		乳児 (新生児・未熟児を除く)		幼児		その他 (学童以上)		
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	
相談	来所	376	675	37	79	3	4	25	65	28	201	49	55	234	271
	電話	-	2532	-	1241	-	220	-	619	-	355	-	51	-	46
訪問指導		434	662	209	305	41	56	96	148	79	120	5	15	4	18

(2) 母親のメンタルヘルス支援事業

表2-1 産後1ヶ月健診でのEPDS実施状況(参考：市町実施分)

平成22年度(単位：人)

	受診者数	EPDS実施数	EPDS実施率 (%)	EPDS9点以上 者数	EPDS9点以上者数 の割合(%)
小松市	870	870	100.0	77	8.9
加賀市	462	462	100.0	30	6.5
能美市	438	438	100.0	26	5.9
川北町	69	69	100.0	2	2.9
計	1,839	1,839	100.0	135	7.3

表2-2 母親のメンタルヘルス支援従事者研修会

開催日	講師・助言者	内容	参集機関(者)
H22.8.6(金) 18:00~20:00	栗津神経サナトリウム 森省二 医師	事例検討 「育児力が乏しい父母への支援」 講演 「妊産婦のメンタルヘルス ～母性の育みと精神の病～」	管内産科・精神科医療従事者、 管内助産院助産師、市町母子 保健従事職員、市町新生児訪 問担当助産師・保健師等 計35名

(3) 幼児精神発達相談事業

表3-1 幼児精神発達相談実施状況

平成22年度

目的	幼児期において重要な精神発達状況を把握し、適切な指導助言を行い、健全な発育発達を促すと共に保護者が精神的にも安心して子育てができるように支援する。
回数	年21回
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の問診 ・心理判定員による判定（K式発達検査） ・小児科医師による診察 ・保健指導 ・総合評価（支援方針の決定）

表3-2 幼児精神発達相談来所者状況

平成22年度（単位：人）

実人員	34	
延人員	38	
1人平均来所回数	1.0	
性別	男	25 (73.5)
	女	9 (26.5)
結果	異常なし	6 (17.6)
	異常あり	28 (82.4)
来所時年齢	1～2歳未満	0 (0.0)
	2～3歳未満	2 (5.9)
	3～4歳未満	10 (29.4)
	4～5歳未満	8 (23.5)
	5～6歳未満	12 (35.3)
	6～7歳未満	2 (5.9)

()内は構成割合%

表3-3 来所動機 平成22年度（単位：人）

各種健康診査結果 市町村保健師より	31 (91.2)
保護者より	3 (8.8)
医療機関より	0 (0.0)
計	34 (100.0)

()内は構成割合%

表3-4 異常の内訳

平成22年度（単位：人）

言語発達遅滞	0 (0.0)
精神発達遅滞	9 (32.1)
自閉症	7 (25.0)
高機能広汎性発達障害	11 (39.3)
知的障害	0 (0.0)
その他	1 (3.6)
計	28 (100.0)

()内は構成割合%

(4) 健やか妊娠育児支援強化事業

ア 目的

多胎妊婦や若年妊婦等は、妊娠中の健康管理のみならず、出産後の育児においても困難が伴いやすい。

そこで、これらの妊婦に対し、医療機関、市町、保健福祉センターの連携により、育児不安の軽減と子どもの健やかな成長を促すことを目的とする。

イ 対象者

- a 多胎、若年、未婚の妊婦及び身体的、精神的疾患を抱える妊婦、その他妊娠や育児に身体的精神的困難が予測される妊婦とその家族。

- b 未熟児養育医療給付申請書及び低体重児出生届または人口動態出生票より把握し、事業実施にあたって、保護者の承諾を得た児及びその保護者。

ウ 事業内容

- a 妊娠保健指導連携事業
b 未熟児保健医療連携事業(退院時連携)
c 未熟児等母乳哺育支援事業(助産師による訪問)
d 健やかすくすく教室の開催
e 「すくすく親の会」の育成と支援
f 外国出身ママ育児支援事業

エ 実施状況(表4～8)

表4 妊娠保健指導連携事業実施状況（妊娠週数別・紹介経路別）

平成22年度（単位：件）

	24週未満	24～27週	28～31週	32～35週	36週～	産後	計
市 町	5	—	—	—	—	—	5
医療機関	2	3	1	1	—	151	158
その他	—	—	—	—	—	—	—
計	7	3	1	1	0	151	163

表5 未熟児保健医療連携事業実施状況（出生体重別・医療機関別）

平成22年度（単位：件）

区 分	1.0kg未満	1.0～1.4kg	1.5～1.9kg	2.0～2.4kg	2.5kg以上	総数
石川県立中央病院	5	8	5	4	7	29
金沢大学医学部附属病院	1	2	2	6	—	11
金沢医療センター	—	3	1	—	—	4
金沢医科大学病院	—	—	—	—	—	0
恵愛病院	—	—	2	28	7	37
荒木病院	—	—	1	21	—	22
加賀市民病院	—	—	—	1	—	1
その他	—	2	4	37	4	47
計	6	15	15	97	18	151

表6 未熟児等母乳哺育支援事業実施状況（リスク要因別）

	実人員	実施回数
未熟児	21	39
多胎児	4	6
その他	52	87
計	77	132

表7 健やかすくすく教室実施状況

平成22年度

	開催日	会場	実施内容	参加者
1	H22.5.28	南加賀保健福祉センター	講話「小さく生まれた子どもの発達」 講師 金沢大学附属病院 小児科医師 黒田 文人 氏	保護者 15名 児 17名
2	H22.6.25	南加賀保健福祉センター	講話・実技「発達を促すための運動」 講師 石川県立中央病院 理学療法士 守山 知子 氏	保護者 18名 児 20名
3	H22.7.23	南加賀保健福祉センター	講話「離乳食のすすめ方」試食 講師 石川県南加賀保健福祉センター 管理栄養士 山本 早奈恵	保護者 12名 児 13名
4	H22.8.20	南加賀保健福祉センター	講話・実技「子どもの事故・SIDS予防」 講師 日本赤十字社石川県支部 幼児安全法指導員 田村 幸子 氏	保護者 8名 児 8名

5	H22. 9. 16	南加賀保健福祉センター	講話・実技「産後のお母さんのからだと健康」 講師 ゆたか助産院 助産師 吉田 みち代 氏	保護者 児	5名 5名
6	H22. 10. 22	南加賀保健福祉センター	講話「小さく生まれた子どもの発達」 講師 金沢大学附属病院 小児科医師 黒田 文人 氏	保護者 児	6名 5名
7	H22. 11. 26	南加賀保健福祉センター	講話・実技「発達を促すための運動」 講師 石川県立中央病院 理学療法士 守山 知子 氏	保護者 児	6名 5名
8	H22. 12. 17	南加賀保健福祉センター	講話「離乳食のすすめ方」試食 講師 石川県南加賀保健福祉センター 管理栄養士 本田 千晶 氏	保護者 児	5名 5名
9	H23. 1. 21	南加賀保健福祉センター	講話・実技「子どもの事故・SIDS予防」 講師 日本赤十字社石川県支部 幼児安全法指導員 田村 幸子 氏	保護者 児	3名 3名
10	H23. 2. 24	南加賀保健福祉センター	講話・実技「産後のお母さんのからだと健康」 講師 ゆたか助産院 助産師 吉田 みち代 氏	保護者 児	4名 4名

* 毎回、希望者には個別相談、身体計測実施

「すくすく親の会」育成支援状況

親の会は、既存の市町の育児サークル等を紹介し、参加者同士交流が図られるよう対応した。また多胎育児ネットや多胎児の育児サークルが

実施した講演会や交流会に参加し、会の育成に向け支援した。

表8 外国出身ママ支援事業

平成22年度

	開催日時	会場	スタッフ	参加状況	母の出身国名
育児相談会	H22. 6. 8 10:00～11:30	北陸先端科学技術大学院大学	大学院：医師・看護師 能美市：保健師、保育士 保健所：通訳、保健師 管理栄養士	4組	中国、チュニジア、エジプト
	H22. 10. 6 10:00～11:30			7組	
	H22. 12. 7 10:00～11:30	能美市宮竹コミュニティセンター	能美市：保健師 保健所：通訳、保健師 管理栄養士	3組	中国、ベトナム、インドネシア、韓国
	H23. 2. 23 10:00～11:30			4組	
訪問	随時	—	能美市：保健師 保健所：通訳、保健師	1件	エジプト

(5) 母子保健支援事例検討会

ア 目的

母親の育児不安や産後うつ病等の状況を早期に捉えて支援するとともに、妊産婦の心のケアが実施できる体制の整備するために、月1回程

度、管内市町と検討会にて今後の支援方法等について検討を行う。

イ 実施状況（表9）

表9 各市町における検討会開催状況

平成22年度

市町名	開催回数	参加者（延人員）			
		保健所保健師	市町保健師等	福祉課・児童家庭課等	その他
小松市	11	31	53	10	—
加賀市	12	15	58	21	65
能美市	12	21	69	25	—
川北町	11	20	16	—	—

(6) 乳幼児事故予防啓発事業（SIDS含む）

ア 目的

1歳から4歳までの子どもの死亡原因の第一位は「不慮の事故」である。そこで、乳幼児の育児を担当する者に対し育児環境の見直しや緊急時の対応について学習会などを開催

し、子どもを事故やSIDSから守る。

イ 対象者

保護者、保育担当者、市町の母子保健担当者

ウ 実施状況（表10）

表10 SIDS、乳幼児事故予防啓発事業実施状況

平成22年度

開催状況	会場	実施内容	参加者
随時	面接相談、育児教室及び訪問指導	個別相談、育児教室における講話、リーフレットの配布事故予防用品紹介	
1回 (H22.8.20)	南加賀保健福祉センター	健やかすくすく教室にて講話・実技「子どもの事故・SIDS予防」	保護者 9名 児 9名
2回 (H23.1.23)	南加賀保健福祉センター	健やかすくすく教室にて講話・実技「子どもの事故・SIDS予防」	保護者 3名 児 3名

(7) 親支援のためのグループケアモデル事業

ア 目的

虐待あるいは虐待に陥る可能性のあることで悩む親に対し、個別ケアと併せてグループワーク手法を取り入れたケアを行うことにより、親自身の心理的病理の回復を促し、虐待の未然防止を図る。

表11 グループケア実施状況

開催回数	参加者	
	親	子ども
24回 (月2回)	実 7人 延 17人	実 8人 延 18人

イ 対象者

強い育児不安や育児困難を感じ、虐待傾向を認識している母親で、家庭や地域で孤立し精神的ケアを必要とする母親。

ウ 実施内容（表11）

(8) 母子保健事業検討会

ア 目的

妊娠早期から出産後の育児期まで一貫して関わっている管内市町の母子保健担当者が管内の状況、課題について把握し検討するこ

とで、管内の母子保健事業の強化及び充実を図る。

イ 実施内容 (表 1 2)

表 1 2 母子保健担当者連絡会実施状況

平成 22 年度

開催状況	会 場	実 施 内 容	参 加 者
H23. 1. 27	南加賀保健福祉センター	検討テーマ 「各市町における母子保健体制について」	各市町母子保健担当者 保健所保健師等 計 10 名

(9) 子どもの心のケアネットワーク事業

ア 目的

ひきこもりや小児うつ、摂食障害、発達障害などの様々な子どもの心の問題について、管内における医療・保健・教育・福祉関係者が連携したネットワーク包括体制を構築する。

イ 対象者

発達障害児 (者) への診断や療育及び支援に関わ

っている管内の関係機関職員

ウ 実施内容 (表 1 3)

- a 子どもの心のケアネットワーク研修会及び支援事例検討会
- b 発達障害児支援のための関係機関連絡会及び学習会

表 1 3 子どもの心のケアネットワーク研修会等実施状況

平成 22 年度

事業内訳	開催日	講師・助言者	内 容	参集機関 (者)
研修会	H22. 11. 19 10:00~12:00	宮城県こども総合センター 所長 本間 博彰 医師	講演 「発達障害の支援のつなぎ目において何をどのように伝えるか」	管内市町児童福祉及び障害福祉担当課 教育委員会、中学校、特別支援学校 医療機関、警察署、児童相談所 障害者就労・生活支援センター 県少子化対策監室、保健所等の担当者 延 76 名
	H22. 11. 19 13:30~16:00		事例検討	
支援事例検討会	H22. 6. 18	公立松任石川中央病院 神経精神科医長 武藤 宏平 医師	事例検討	支援事例に係る小学校、医療機関、児童相談所、保健所等の担当者 計 8 名
関係機関連絡会・学習会	H22. 6. 18 H22. 8. 27 H22. 10. 15 H22. 12. 24 H23. 2. 18	児童相談所 心理士 児童福祉司	事例検討	管内市町児童福祉及び障害福祉担当課 県・市教育委員会、小中学校、保育所 医療機関、児童相談所、保健所等の事例支援担当者 延 132 名

(10) 思春期からの健康相談等連携事業

ハイリスク妊産婦の要因となる思春期からの心や身体的問題を予防し、また困難事例の早期発見と早期対応を目的とする。

指すために、医療機関・市町・保健福祉センター等の関係機関の連携について研修会等を開催し検討した。

表 1 4 思春期からの健康相談等連携事業実施状況

平成 22 年度

事業内訳	開催日	対象	実施内容
意見交換会	H22. 11. 16	産科医療機関、助産師会助産師、市町保健師	妊娠期からの支援にかかる意見交換 延 23 名
事例検討会	H22. 4. 27 H23. 3. 2	双子を育てる障害を持つ両親の事例に関わる職員 市町、保育所、障害者就業・生活支援センター	事例検討会 延 16 名

(11) あんしん継続母乳育児地域支援事業

母乳栄養のメリットについて、地域や医療の関係者が、共通の意識と正しい支援知識・技術を持ち、母乳栄養に

よる育児についての母への支援を行えるようにするために研修会を開催した。

表 1 5 あんしん継続母乳育児地域支援者研修会

事業内訳	開催日	対象	実施内容
研 修 会	H23. 1. 27	助産師会助産師、市町保健師	講演 「母と子にやさしい母乳育児支援」 恵愛会松南病院 上田 智子 氏 延 13 名

2 小児慢性特定疾患相談・訪問状況

ア 目 的

小児慢性特定疾患患児及びその家族の適切な在宅療養生活の確保のため医療機関や市町、教育委員など関係機関と連携を密にし、下記のとおり相談等を実施した。

イ 相談状況 (表 1 6)

小児慢性特定疾患医療費公費負担申請時に保健師による面接を行い、状況を把握し、病気や療養生活についての相談に応じている。またその他の来所、電話相談は随時対応した。

表 1 6 小児慢性特定疾患別相談指導人員

平成 22 年度 (単位 : 人)

区 分	実人員	延人員
悪 性 新 生 物	7	7
慢 性 腎 疾 患	6	6
慢 性 呼 吸 器 疾 患	2	2
慢 性 心 疾 患	4 0	6 1
内 分 泌 疾 患	1 6	1 6
糖 尿 病	5	6
先 天 性 代 謝 異 常	4	8
血 友 病 等 血 液 ・ 免 疫 疾 患	3	3
神 経 ・ 筋 疾 患	2	2
慢 性 消 化 器 疾 患	2	2
計	8 7	1 1 3